



Yokkaichi Senior High School

三重県立四日市高等学校同窓会公式ホームページ

http://www.pcs.ne.jp/~shiko/



（満開の桜と同窓会館）

〈平成24年度総会のご案内〉

平成24年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

○日 時

平成24年6月2日(土)

13時30分受付 14時00分開会

○場 所

四日市市総合会館8階 視聴覚室

○記念講演（総会后）

〈講師〉

元・巨人軍

高橋正勝氏（四高30年度卒）

〈演題〉

「故・水谷貞雄監督と甲子園初優勝」

終了後

・抽選会のあと記念撮影

・喫茶室にてティー・パーティー（無料）

○付記

- ・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。
- ・講演につきましては、一般に公開しております。お知り合いで、ご興味のあります方には、ご案内下さい。

○問合せ

四日市高校同窓会館

TEL・FAX 059-365-3631

Eメールアドレス

sikoukai@m2.cty-net.ne.jp

活気がある学校だと思っております。そのような環境で育った生徒こそ、社会に有為な人材になり得ると考えております（なお、学業の方も昨年以上の好成績です）ので、今後も引き続き実践してまいります。最後に、同窓生の皆様におかれましては、母校に対して引き続き温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会報

No.69

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会

四日市市茂福65
TEL〈059〉365-3631

印刷
株式会社東海フォトデザインシステム



同窓会副会長 坂倉 加代子
（四高32年度卒）

同窓会の役割を思う

その人が四日市高校の卒業生であることを知ると、どんなに年の差があろうと、理屈抜きに親近感が湧いてくる。

歩きながら、四高グラウンドを駆け回る在校生達を「同窓」のまなざしで見つめている。

とは言うものの「三重県立四日市高等学校同窓会」という組織には、今までずっと無関心だった。この遠い存在であった同窓会の役員を私は、何をするのか知りもせず、考えもしないで引き受けた。副会長の鈴木田先生からの「役を引き受ける歳になったということや」の電話に反論することが出来なかったのだ。

お陰で、会議の都度、同窓会館まで1ヶ月程前のこと、静岡県にある飛龍高校の生徒が演奏する「飛龍太鼓」を聴く機会を得た。

全国大会で優勝した飛流太鼓を、東日本大震災の被災地復興を祈願し奉納する会が、大津市の日吉大社で行われたのだ。

演奏前にくつろぐ男女生徒15名は、何の変哲もない、普通の高校生の顔、むしろ元気がない様子に見えた。

ところが、いざ舞台上がると、ピシリと姿勢を正す。演奏が始まるや、顔が、身体がキリリと締まり、ある時は力強く、またある時はしなやかに軽やかにリズムを打つ。メンバーがひとつになつていくことが伝わってくる。空に轟く太鼓の音に乗って龍が災を持ち去ってくれた図が頭に浮かぶ。涙が体の底から込み上げてきた。隣に並ぶ高齡の女性も「どうして涙が出るのでしょうか」と呟いている。

鳴りやまぬ拍手。高校生たちの顔が輝いてくる。笑顔が弾けている。150人の観客が「ありがとう」と高校生を取り囲む。

「四日市高校同窓会」は、若者たちの姿に未来を見るためにあるのかもしれない。そのためには何をしたらいいのだろうか。



同窓生の絆

学校長 水谷 明弘

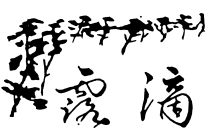
同窓会の皆様におかれましては、平素より母校の教育全般にわたりご支援ご協力賜りまして厚くお礼申し上げます。

本年度は、3月11日に発生しました未曾有の東日本大震災による津波被害を初め台風12号による豪雨など、自然災害の恐ろしさを再認識させられた年でした。母校では、被災者の支援のために生徒会による募金活動や、吹奏楽部によるチャリティコンサート開催等で義援金を募り、ささやかですが復興支援に協力いたしました。

さて、今年度は野球部が、全国高等学校野球選手権大会三重大会（第93回大会）におきまして44年ぶりにベスト4まで勝ち進み、その健闘ぶりが大きく報道されました。また、浦野球場で行われましたので、夏季課外学習を短縮して、殆どの生徒が

応援に駆けつけました。肩を組んで校歌を大きな声で歌ったり、ヒットや好守備に拍手をしたり、校内では普段見られない生徒の活気に満ちた表情に頼もしさを覚えた次第です。この健闘に北海道や愛媛県にお住まいの20年、30年以上前の卒業生から「感動した」「元気をもらった」等の激励のお手紙や寄付金をいただきました。このことはまさしく「同窓生の絆」ではないでしょうか。遠く離れていても、何十年経過していても、母校を愛する多くの同窓生がいる名門校であることを生徒が自覚し、全力で四高生としての使命を果たすとともに、在校生も母校をこの上なく愛して欲しいと思っています。

四高には「文武両道」という校風はあるものの、近年は学業至上主義で進んで来たように思えます。真に一流の学校は、学業と部活動が両輪として動き、自然と仲間作りができ、



「お早よう！お早よう」寒風の中、登校中の高校生に声をかける。知らぬ顔で通り過ぎる。「この生徒は一体何だ」と憤りを感じる。しかし、よく確かめると、両耳にイヤホンをつけて登校している。それ以来、馬鹿らしくて、あいさつも躊躇する。▼ポケットベル、ケイタイ、メール、スマホと人間同志の交流を深めるための機器がややもすると交流断絶を深める機器になりつつある。核家族、マイカー社会、IT機器社会が人間個体化を進め、人との交流断絶に拍車がかかる。各個人が機器に溺れ、幻想の世界をさまよう。それを助長する企業広告の氾濫。▼

昨年末、ブータン国のウォンチュク国王、ペマ王妃が国賓として来日、1週間程滞在。東北地方被災地訪問、国会演説、皇居にての晩さん会等、あらゆる場所にて好感をもたれた。国王は「国民生活に便利さを求めた日本国は完璧なまでに発展している。しかし、そこに住む日本国民の幸福度は如何なるものか。ブータン国は資源もなく、生活に便利さは求めていないが、国民は人間としての幸福度は一人一人が世界一と自負する」と自信たっぷり。▼人間社会の最も基本的な「あいさつ」はおろか、人間交流すら断絶しようとするIT機器に群がり寄る日本国民をブータン人は何とと思っているだろう。光源をもとにした、TV、ケイタイ、メール、スマホ等の細かい文字や図柄を見続けられ、将来、視覚障害は確実に起こり得ると断言する専門家は多い。将来の日本国民が幸福に生きることを考えれば、現在に生きる国民一人一人の責任は重い。とりわけ、将来の指導者を育てるアイデンティティを持つ、母校の人間形成教育とその成果に期待するのみである。

（鈴木田）



記念講演



受付風景



ティー・パーティー風景



富中・四女・北女卒業生



四高昭和25～30年度卒業生



四高昭和31年度以降卒業生

財団法人四高会 平成22年度 収支決算書
(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部				
単位：円				
勘定科目	細目	摘要	決算額	予算額
寄付金収入		同窓会より	800,000	800,000
雑収入		会館使用料	99,000	105,000
		受取利息など	2,057	3,115
前期繰越金			1,061,885	1,061,885
合 計			1,962,942	1,970,000
支出の部				
単位：円				
勘定科目	細目	摘要	決算額	予算額
管理費			685,767	1,520,000
	事務費		131,825	400,000
	会館修理費		39,840	500,000
	清掃費	環境整備等	109,200	100,000
	保険費	火災保険料	18,570	20,000
	光熱給水費	電気、水道、ガス代	386,332	500,000
事業費		会議、講演	200,194	250,000
法人住民税		県税・市税	140,000	150,000
予備費			0	50,000
合 計			1,025,961	1,970,000

(次期繰越金)
百五銀行富田駅前支店普通預金 936,981円 単位：円

平成22年度収入	1,962,942
平成22年度支出	1,025,961
差引残高	936,981

四日市高校同窓会 平成22年度 収支決算書
(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

収入の部				
単位：円				
項目	細目	摘要	決算額	予算額
同 窓 会 収 入			8,465,200	8,244,000
	入 会 金	全日制1,800円×1,063人	1,913,400	1,944,000
	同 窓 会 費	終身 (20,000) 313 6,260,000		
		10年 (10,000) 1 10,000		
		5年 (5,000) 1 5,000		
		3年 (3,000) 3 9,000		
		2年 (2,000) 2 4,000		
		1年 (1,000) 297 297,000		
		同窓会費計 6,585,000		
	振込料	△ 33,200	6,551,800	6,300,000
雑 収 入		利子、その他	31,630	9,806
繰 越 金			1,206,194	1,206,194
合 計			9,703,024	9,460,000
支出の部				
単位：円				
項目	細目	摘要	決算額	予算額
運 営 費			1,072,578	1,550,000
	給 事 通	与 務 信	1,030,000	1,100,000
		給料、事務用品費	23,298	350,000
		電話、郵便料	19,280	100,000
会 議 費			232,341	370,000
	総 理 事 会 常 任 理 事 会	会場費、懇親会費、案内状	126,720	250,000
		会場費、会議費、案内状	100,271	100,000
		会議費	5,350	20,000
事 業 費			1,307,039	1,450,000
	会 報 クラブ 激励 金	会報印刷及び発送費	807,039	950,000
		母校クラブへ	500,000	500,000
		(財)四高会寄付金	800,000	800,000
四 高 会 拠 出 金		インターネット管理費	95,122	500,000
積 立 金		通信代、利用料、ホームページ更新代等	4,700,000	4,700,000
予 備 費		供花等	83,342	90,000
合 計			8,290,422	9,460,000

百五銀行富田駅前支店普通預金	単位：円
平成22年度収入	9,703,024
平成22年度支出	8,290,422
次年度繰越金	1,412,602

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金)	単位：円
前年度末	23,845,567
今年度積立金	4,700,000
利子	13,521
今年度末	28,559,088

議 事

総会で審議された議案は次の通りです。

- 第1号議案 平成22年度事業報告
- 第2号議案 平成22年度収支決算・監査報告
- 第3号議案 平成23年度事業計画案
- 第4号議案 平成23年度予算案

以上の議案について慎重な審議の結果、全会一致で承認されました。

記念講演

今年の記念講演は平成元年度卒の辻積之氏にお願いし、「浪花節だよ、防災・危機・Jリーグも ―危機管理について―」という演題で、東日本大震災の現状や今見直さなければならぬことへの提言などを中心にお話いただきました。

「故郷三重に対して恩返ししたい」と思いながら仕事をさせてもらっている」という言葉から始まった講演では、防災・危機管理の仕事に携わるが故に震災の生の姿を目の当たりにしたご様子と共に、復興に関し

平成23年度総会は、6月4日(土)、四日市市総合会館にて、約70人の参加を得て開催されました。

最初に熊澤会長が、震災の影響は免れないが、復興に向けての期待と今後への決意を述べられました。またそのためにも、同窓生の縦横の繋がりを強くすることが大切である旨お話しされました。

次に水谷校長は、同窓会員への挨拶とお礼、また母校の現況をお話し下さり、活気のある学校にしていきたいと抱負を述べられました。

その後、議事審議、記念講演、記念撮影、抽選会、ティーパーティーと、つつがなく進行しました。

りにしたご様子と共に、復興に関して様々な角度からお話しいただきました。

そして「四日市ではどうか？」と今後考えていかなければならないことへの提言と共に、「命を守る」ためにも家具の固定(特に寝室)、耐震補強、避難経路の確認などの必要性をわかりやすく教えて下さいました。

また、これからの社会、いつも、どんなことにも危機管理をしていくことが重要であり、その点では、欧州のスポーツビジネスではセキュリティをしっかりとし安全を確保している例を挙げて、役割分担など自立への考え方や、自分が何とかするからついてこい！ という姿勢が浪花節と似ていると、私たちの人情に篤い心に喚起されました。



甲子園初優勝に導いた 水谷貞雄監督逝く

昭和30年、第37回全国高校野球選手権大会にて、母校を初出場、初優勝に導いた富中第38回卒業の水谷貞雄監督が、平成23年11月29日、肺炎のため、87才にて死去されました。葬儀は12月1日、桑名市内の葬儀場にて、しめやかに、とり行なわれしました。多くの野球部OB会の方々が参列。葛西源司OB会々長の弔辞に参列者一同、感涙にて亡き監督を見送りました。

また、四高野球部OB会は、富中時代、水谷監督の2年後輩の野球OB会名誉顧問である岡田卓也氏を中心に、12月22日、四日市都ホテルにて「故・水谷貞雄監督を偲ぶ会」を開催。OB会会員60余名が参列。母校のスクールカラー「グリーン」を基調の花で飾られた水谷監督の遺影



偲ぶ会風景

平成23年度会費納入者

(敬称略)

- 終身会費(2万円)
- 石川琢也、伊藤宗彌、伊藤玲央、井上英子、大田直央、岡崎りさ、岡林達哉、葛西春菜、川北百合佳、河久保智大、川瀬真由、北川伸、北川由貴、清川真千子、越田雄樹、小林千洋、坂本彩夏、澤村恵里華、清水文香、館和香奈、伊達智彦、田中敬大、寺島伸、土井まゆ子、端地彩奈、濱口大明、林東吾、林田光弘、藤枝潤希、水間都、三谷将登、南衛、森亮太、森本章裕、山路秋恵、山田真之、山田美都、赤穂菜摘、池田尚矢、市川裕也、伊藤恒徳、今村喜紀、上地遼、大谷美の里、小川布由奈、笠井賀織、加藤瞳、加藤雅也、川口智子、川嶋貴也、倉田詩織、坂井元美、榊谷彩香、笹川真緒、杉野彰紀、高橋奈々美、竹内海里、竹之下龍一、田代真子、辻大輔、出口美帆、名和あゆみ、林崎真侑、廣野摩利香、福本和馬、細川晃平、松本一真、三枝千鶴、山田諒介、吉川沙綾、渡辺早紀、荒木駿、安藤和記、伊藤嘉奈子、伊藤早希、伊藤志帆、稲葉友汰、井上洋輔、笠井菜、葛山悠、加藤恵菜、加藤駿、北川瞳、木下初実、栗本紘華、黒宮愛、後藤あい、小林紗也、小柳里奈、坂井佑陶、佐々木宗、清水美沙、田中健太、長尾はるな、二宮将、橋本真吾、畑菜月、服部円香、林貴哉、平瀬ひかり、藤田舜、増田直斗、水谷真幸、森本夏未、諸岡美奈、山田春菜、渡邊健人、青山恭大、伊藤かな、伊藤夕貴、伊藤隆作、今村美友、上田揮一、上田洋也、興村晃太郎、小掠友理恵、尾崎友美、尾西大輝、加藤美樹、加藤雄也、川瀬諒馬、川辺隆太、栗本和輝、郡浜拓、清水勇希、高橋嶺央、谷口順哉、谷口友美、田村智樹、富永悠司、中村沙絵、野村美咲、長谷川智久、濱田高彰、林佳史、平田京、藤田忠英、二井紗規子、松尾茂治、森脇英司、大和可奈、弓矢真穂、吉田藍、渡辺
- 清末、青木仁志、石原彩花、伊藤貴博、伊藤萌、伊藤祐太郎、小栗稔生、片岡憲吾、加藤秀明、栗田顯、栗野有加、小林智実、齋藤瞳、坂倉史健、桜井一穂、鮫島美優、志貴友紀、立石智子、田中健一郎、田中沙英、富田寛樹、豊田修介、中尾祐太、中川恵美、中根晴信、中村悠暉、西澤れい、長谷川彩乃、服部純加、藤井祐丞、藤岡玲奈、別所真帆、前川恵里、前田猛、町野恵利香、森倉遼太、柳川翔平、山本大貴、横山瑛貴、渡邊悠介、石田一樹、石本龍信、市川功二、伊藤巨輝、伊藤志帆、氏家聖奈、内鏡原健太、内田美織、岡始良、尾関克紀、後藤大和、小林晋作、小松美穂、澤田駿、高森亮輔、館明宏、田中順、田中美希子、近澤愛実、土井崇史、中西亮介、中野頌子、中村海透、西川翔子、西山千尋、橋本峻、服部幸弥、藤枝大樹、藤森宏太、松谷知紗、松永孝彦、宮崎雄大、森智章、矢田健吾、山崎敦善、山田千裕、米川航平、和田浩平、阿部光、天野雄太、荒木千絵、石田元彦、伊藤大輔、伊藤雅泰、井上春、岩間祥真、大加真梨奈、太田晃仁、岡宏哉、栗山祥英、車谷謙太、河野愛弓、後藤早紀、小林加寿希、古村隼人、近藤あんり、迫田将拡、霜村侑香、田中祐介、谷口敬俊、土井翔太、豊田貴規、永岡沙希子、永川晋丞、中野友貴、西脇寛、野口智之、野呂優太、樋口海杜、久村香奈、福嶋佑己、藤岡亜美、万谷拓矢、水本健太郎、三輪剛士、安田大士、宿里美緒、山本歩美、渡邊順一朗、市川諒、伊藤翔悟、稲垣敬介、稲垣賢、稲垣翔平、岩田健太郎、梅脇展輝、大山哲弥、木村隼大、釘持駿、河野宏俊、小林知弘、佐藤涼太、杉村有泉、鈴木俊也、鈴木翔、角谷弘樹、関沢恵介、竹尾英俊、多田吉克、棚尾晃大、玉尾一真、田牧祥吾、中久木一平、中宿優太、永野広大、永海貴識、丹羽耕作、野田尊、東浩輝、藤原和典、前田椋、水谷将大、村井謙太、横田悠樹、吉田健志郎、赤須由起子、生

会費納入のお願い

- 同窓会の事業はすべて会費により運営されています。会報の送付なども、財政上の理由から会費を納めた方だけに限らせていただいております。納入がまだお済みでない場合には、是非お早めにお願ひ申し上げます。
- 納入金額
終身会費 2万円
毎年納入の場合 年会費 千円
- 納入方法
①郵便振替 口座番号 0082001816367
三重県立四日市高校同窓会
※専用の振込用紙がありますのでご連絡下されば送付いたします。
また同窓会HPよりダウンロードも可能です。
- ②現金書留
会館迄ご送金下さい。
- 《お問い合わせ》
四日市高校同窓会会館まで電話・メールにてご連絡下さい。

第3回 銀城親睦ゴルフ大会

一昨年、母校創立110周年を記念して開催されました第1回銀城親睦ゴルフ大会。

昨年の第2回大会に引き続き、去る11月10日(木)、四日市カンツリークラブで、第3回銀城親睦ゴルフ大会が、今年も開催されました。参加者は女子10名、男子106名の総勢116名でした。

最高齢者は富中第38回卒の今谷慶郎さん(T13・2生)でした。また、当日の優勝者は、以下のとおりです。

◆女子の部

杉本真佐子さん(四高S29卒)

54+50=104 ネット 76.4

◆男子の部

矢田 琢夫さん(四高S32卒)

41+41=82 ネット 70.0



↑男子優勝 矢田 琢夫さん(左)と女子優勝 杉本真佐子さん(右)と熊澤会長(中)

←懇親会会場





疾風88年、 激動の時代を生きて

水谷 光男

（富中第38回卒）

「富中三八会」は、富中第38回卒にちなんで名付けられました。

大東亜戦争開戦直前に卒業した私達は、卒業時133名、戦没者22名を含む多数の級友が亡くなり、現在生存者は27名になりました。

昨年8月には13名が集まり、米寿を祝うと共に旧交を暖めました。私達「富中三八会」は、年に3度の会合をはじめ、過去に3度の「私達の趣味の作品展」や、知覧への慰霊旅行など、大変固い団結を誇り、他のクラスの方々からも羨ましがられています。

大東亜戦争勃発後、東京在学中の「人はなぜ憎しみ合い、戦争をするのか」と述べ、短い命で両親に孝養

四日市高校が、55年夏甲子園で見事優勝した時の監督水谷貞雄君も親友ですが、昨年未亡になりました。私は上京のたび靖国神社に参拝しますが、ある時社頭で求めた「靖国神社英霊言之葉集」には級友瀬田萬之助君の文章がありました。

彼はマニラ湾の夕景を眺め乍ら、

四日市高校に幸あれ。
三八会萬才！

を尽くせなかった不幸を詫げる遺文でした。伊勢市の公報にも掲載しましたが、大きな反響がありました。昭和59年、私が乞われて伊勢市長選に出馬の決起大会には、恩師池内先生に応援演説をしていただき、今も感激を忘れることはありません。

近鉄富田駅を通過する車中から校舍を見るたび、私達が1年生の時に出来た宮地校長作詩の校歌や、恩師の面影が甦ります。

暗い戦時中に学び、祖国復興の氣概に燃え、高度経済成長時には働きに働き抜いた私達が、往時を語り、師や友を偲び合う私達の三八会が生きた事、ある時社頭で求めた「靖国神社英霊言之葉集」には級友瀬田萬之助君の文章がありました。

彼はマニラ湾の夕景を眺め乍ら、四日市高校に幸あれ。
三八会萬才！



過ぎし日を振り返って

笠井 清子

（北女19回卒）

人生80年といわれていますが私はもう既に過ぎてしまいました。何と言っても今だに忘れられないのは、

学徒勤労動員です。女学校3年の夏現四日市高校の校庭で出発式をして軍事工場（中島航空製作所）へ配置され働いていたことを今でも時々想い出すことがあります。私は遠方からの通学でしたので寄宿舎に入りました。飛行機の部品の検査係へ配属され働いていたことが今でも忘れることが出来ません。両手は油でドロドロになりノギス、マイクロメーターという精密な器具を使って1mmの何分の1の誤差がないよう検査をしていました。身体中に湿疹が出来て大変でした。3時に勤務が終わってその後1時間勉強がありました。終戦の翌日からずっと学校へ戻りました。

往 来

現在津市に住んでいます。近所に津高校の歴史の先生がおみえにな



今の高校生たちへ

今村 公子

（四女42回卒）

先日、電車で高校生男女の一群に乗り合わせた。親し気に談笑しているほほえましい風景に、ふと私の女学校時代を重ね合わせた。

当時は、幼なじみや近所の友であつても、異性には口を利くどころか、視線を合わせることもええはば

私達42回生は、1942年12月8日の朝、教室で校内放送による開戦の報を聞いた。古い校舎でまともに授業を受けたのは2年生のころまで。3年生では、近郊の農家へ田植

えや稲刈りの勤労奉仕に出かけた。曙町の荒地の開拓をしたり、サツマイモの苗の植付けや収穫など、学業とは全くかけ離れた農作業に精を出した。

4年生になって早々、学徒動員令が下り、私たちは三滝川河口の三菱重工の工場への動員にかり出された。今思えば、10代の少女がヤスリやハンマーを握って、厳しい監督のもと、よくぞ耐えたものと思う。空襲警報のサイレンや敵機の爆音に怯え、防空壕内で悲鳴を上げたことも何度もあった。

今、目の前にいる女子高生は、私たちの青春とは天と地ほど違う日々を過ごしている。うらやましくもあり、そうでなくてはならないとも思う。あんな青春時代を送ったのは、私たちが最後であつてほしい。勉強もスポーツもおしゃれも恋も、思いきりしなさいと心から伝えたい。



Uターン雑感

永田 哲夫

（四高36年度卒）

私達36年度卒組が入学した昭和34年は伊勢湾台風年で、校舎は床上浸水し同窓生が犠牲になるなど悲しいスタートでした。高度成長の負の遺産として公害問題が大きく取り上げられた時代でもありました。好奇心旺盛な三男坊が地味な高校生活を卒業して、四日市を飛び出し姫路、神戸、大阪、金沢、海外と15年間故郷を離れたあと、会社倒産を機にサラリーマンに見切りをつけてUターンしたのは昭和52年。若気の至りであれほど退屈そうにみえた四日市が魅力的に見えるようになったから不思議です。

人口30万人。大都会名古屋に30分。東海道の交通の要衝で、港もあれば市内に千米を超える山があるなど自

然も豊富です。気候は温暖、高い工業生産力と言うまでもなく農業も盛んで、水道水もおいしく酒造産業まであります。文化面で寂しいと言われるが、市民オーケストラや博物館もあって、歴史も久留倍官衙遺跡など弥生時代にまで遡ることが出来るし、奈良京都は日帰り圏です。中心商店街も元気がないとはいえず、その機能は果たしています。地価も相対的にお値打ちで住環境にも恵まれています。すれ違っても誰とかわからない開放性と、2、3人も介すれば知人にたどり着く閉鎖性が絶妙のバランスを保っています。何にもまして働く場所がある経済的活力は、総合力で都会と田舎のそれぞれの魅力を併有していて「幸福度指数」の高

い街ではないでしょうか。Uターン当初は失業状態で閉じていたのは同窓生であり、現在の税理士業務の基盤を創ってくれたのも同時期に事業を開始した同窓生でした。我々世代は就職時に不況のため公務員など地元に残った人も多く、彼等は私のようなUターン者にとつて空白期間を埋めてくれるありがたい存在です。

学年同窓会は2、3年毎に開催され、昨年10月には都ホテルで1000人超の出席で盛大に行われました。この他に同好仲間30余名での学年ゴルフコンペも年数回開催されます。こうした同窓会組織の存在、その活動は青春時代に戻るきっかけとして得がたいものです。会務運営の役員、幹事の方々にお礼申し上げます。母校の今後益々の発展を願っております。

人物



クラス会雑感

廣瀬 勝彦

(四高38年度卒)

取り入れた。春先に場所の選定等を相談した際、飯島君から母校訪問の提案があった。それに小生が同調。そこから具体的な計画が始まった。

四高に出向き先生の了承を得た。

平成23年10月29日(土)午前11時、男女合わせて15人の元若者が近鉄富田駅西口に集合。早速、全員が同窓会館に向かった。

3年5組のクラス会がスタートしたのは、平成18年11月3日。以後毎年実施しているが、この間、参加者は15人から20人で推移。担任は化学の今村先生。だが健康上の理由で出席が叶わず残念だった。

今回のクラス会では新しい趣向を

中庭から奥へ当時を思い出しながらぶらぶら歩く。その変貌ぶりに驚きの連続である。校舎・体育館・プール・図書館の位置関係は変化なく、天文台は無くなっていた。

グラウンドでは硬式野球部の酒商との練習試合が始まる場所だった。昔の定期戦や応援を懐かしく語りながら試合を観戦した。椅子とお茶の振る舞い、笑顔と元氣な挨拶は私達にとって嬉しい出来事だった。

四高を後にして5分程西へ歩き、の練習試合が始まる場所だった。昔の定期戦や応援を懐かしく語りながら試合を観戦した。椅子とお茶の振る舞い、笑顔と元氣な挨拶は私達にとって嬉しい出来事だった。

四高を後にして5分程西へ歩き、



学校は楽しいところ

宮田 毅

(四高60年度卒)

地元の小学校教員として働き始めて21年目となりました。まだまだ若いと思っていたのですが、運動不足と急激な体重増加のためか、先日運動中にアキレス腱を切っていました、人生初めての手術、入院、休職を経験することになってしまいました。

なにせ子どもの頃から、痛いこと、そして病院が大嫌い(好きな人はいないと思いますが)な私ですから、今回の出来事はまさに悪夢でした。しかし、大嫌いな注射や恐怖の手術なんてものはわずかの我慢、終わってしまえばどうってことありませんでした。そんな事よりも大変だった

のは、約6週間に及ぶギプス生活。

松葉杖や車椅子で生活することの大変さを身にしてみ感じました。しかし、同時に改めて家族や周りの方々の優しさに触れることもでき、自分にとって良い経験となりました。

さて、そんな自由の利かない退屈な毎日を送っている時に今回の原稿依頼があり、久しぶりに高校時代のことを考えていたのですが、やはり私にとって一番の思い出は、クラブ活動でした。3年生最後の県高校総体で準優勝し東海大会に出場できたことも思い出の一つではありますが、それよりも遅くまで部室で話を

したり、遊んだり、厳しい練習をしたりしたことが今でも忘れられません。学力だけでない大切な力や仲間を高校3年間で得ることができたことに感謝しています。とにかく高校だけでなく、私にとって学校とは「楽しい」ところでした。

情報があふれ便利な世の中になった今、我慢することも少なくなり学校にはいろんな子どもたちがいます。そんな子どもたち一人ひとりが、自分勝手な楽しさではない本来の意味の「学校の楽しさ」を味わえるよう、努力していかなければならないと感じています。



単身赴任とジム通い

伊藤 利造

(四高45年度卒)

私は現在、埼玉県草加市の会社に単身赴任中である。定年を間際にして2年半になる。

昨年3月11日の東北地方太平洋沖地震を当地で経験した。草加市で震度5強であった。地震発生時には会社の工場建屋内にいて、建物が倒壊するのではないかと思う強い揺れが長く続き、命の危険を間近に感じ身構えた。幸いにも自分も含めて工場内で負傷者は発生しなかった。今振り返ると貴重な経験であったと思う。普通の生活ができていたのに感謝である。

地震後、ガソリン入手困難になったのを契機に天気の良い日は自転車通勤に切り換えた。今も続いている往復20キロメートルは良いトレーニング

ングとなっている。ところで、私は四日市でスポーツクラブに入会していたが、当地でも入会し、単調な単身赴任の生活の中でジム通いを日課としている。週4日を基本にウェイトトレーニングを主に行っている。それもベンチプレスとかデッドリフトの類である。特に目的があるわけではないが、継続的に始めて12年になり、それなりにパワーもアップできている。

ベンチプレスといえば高校時代を思い出す。私は柔道部に所属し西尾先生の指導を受けていた。その当時トレーニングといえば、腕立て伏せ・腹筋・うさぎ跳びが主流であった。昭和44年の2年生の時だったと思うが、西尾先生にベンチプレス台とバ



坂の上のミニスカサント

池端 正樹

(四高平成3年度卒)

団塊ジュニアで受験勉強優先だった四日市高校時代でしたが、案外つらくなかった気がします。この「青春」の一時期に得た考えや人々が人生に深く関わっている気がするからです。すなわち、「どう生きるか」、私の場合は専門職へのあこがれでした。

四高卒業後は早稲田大学商学部へと進学し、(より強い男子を目指して?)ボクシング部に専念する日々であり、この学生時代に得た友人、先輩、先生は一生の財産となりました。今では当たり前の感があります

ーベルセットを道場に購入していた。しかし、ウェイトトレーニング法を知っている部員もいなく適当に使用した記憶がある。今思えば、高校当時にウェイトトレーニングを本格的にしていれば、柔道でももう少し活躍できたのではないかと40年以上経過した今でも悔やんでいる。

今年、私は節目となる60歳を迎える。これからは体力低下の一途であるが、今後も体力の続く限りジム通いを続けるつもりである。



が、私たちの世代は就職超氷河期一期生です。就職した保険会社を退社し、働きながら合格した不動産鑑定士試験が、現在の職業となります。現在は業界では大手の不動産鑑定会社にて大阪↓名古屋↓東京と転勤し、全国各地の案件を見て回っております。学生時代は想像もしなかった不動産鑑定士というニッチな職業ですが、外半分中半分で、面白いことに自分の好みにピッタリなのだから不思議です。回り道はあってもやはり学生時代からの専門職へのあこがれは抜けないものなんだあと。3年前に遅ればせの結婚をし、40

歳目の今年、娘を一人授かりました。人生まだまだ折り返し地点のこれから、お世話になった方々や地域に何がしかのご恩返しできればと考えています。東日本震災で「絆」の重要性、家族の大切さを認識した今年でした。思えばふとしたきっかけで交流が再び始まります。現在の四日市高校の皆さん及びOBOGの方々には是非何らかのつながりを続けていつてもらいたいものです。

タイトルは、前に進み、いつか上にあがればきっと何かいいことがあるともええのかなあと。下半身最優先となりがちな高校生時代からの思いです。

リレー随想 〈第15回〉

全ては四高美術部から始まった

ARKSTUDIO 一級建築士事務所所長
摂南大学非常勤講師

羽木 みどり（四高49年度卒）

私が四日市高校へ入学したころは、高校生までをも巻き込んだ学生運動も影を潜め、私達は何かにつけ、無気力、無関心、無責任の「三無主義」の世代だとよく評されておりました。また、学校も偏差値教育に明け暮れ、まるで大学受験のための予備校であるかのようでした。入部した美術部も例外ではなく、先輩達は皆、黙々と一人石膏像と向き合い、木炭デッサンに励む毎日、芸術作品を創作するというよりも、美大受験のためのデッサン練習場という雰囲気でした。

そんな環境にどっぷりと浸かりながら1年を過ごし、2年生になると、鈴木木田先生が赴任して来られたのです。美術部の指導を通して、体制に流されそうな私達に「如何に生きるか」ということを、日々熱く説き続けられ、私の学校生活は美術部を拠点に、それまでのものとは一変してしまいました。緑化ポスターのコンクールへ出品して賞をいただいたり、100号の油絵の大作に挑戦したり、夏休みには波切ヘスケッチ旅行の合宿に行ったりと、本当に充実したものでした。

また、大多数の者が、将来何をするのかということよりも、偏差値の高い大学を選択する、というような風潮に、「それでは駄目だ」という先生の人生訓が浸透して、本当に何がしたいのかと色々と悩んだ挙句、ようやく決めた学科が京都工芸繊維大学住環境学科でした。当時、環境問題がクローズアップされ始め、何か環境に関わることに意義を覚え、また、そこは芸術の素養も求められているということも魅力的でした。

実際に入学してみると、インテリアから都市計画までの幅広い視野の上に立った建築学科ということで、取り立てて環境問題に取り組むということはありませんでしたが、空間や場というものを創造していくという設計行為が大変面白く、設計演習に昼夜を問わず、明け暮れた学生生活でした。その後、設計事務所に就職し、住宅の設計の仕事に主に携わるようになり、しばらくは環境とはあまり関わりなく過ごしておりました。しかし、気がついてみると面白いもので、現在は、住宅の設計を通して環境問題を考えるようになっております。

「本当に心地良い住まいはどうしたら造れるのか」と住い方を突き詰めて考えていけば「如何にして生きるか」ということに突き当たります。今、私達は限りない人間の欲望を満たすべく、便利な生活を追求め、科学技術を発展させてきましたが、その代償として、失ったものも大きく、決して本当に豊かな生活が出来ているという訳ではありません。自然の循環の中で、風の心地良さを感じ、溢れる光に包まれ、木々の緑を楽しむような生活に、本当に人間らしさがあるということに気付かされ、「地球環境と共生できる住まい造り」というテーマのもと、環境問題にも取り組みながら、設計の仕事をしております。

これらのベースは高校時代の美術部にあり、「如何に生きるか」と問い続けられたことが脈々と今に続いてきているのではないかと思う、昨今です。



＜筆者デザインの室内＞

一若者の
四日市との再会

稲垣 雄介

（四高平成16年度卒）

勉学と柔道に勤しんだ母校を卒業後、7年振りに地元四日市に戻ってきて驚いたのは、四日市が意外に元氣なことを発見したことでした。

我々市民が元氣になり、四日市、あるいは三重が活性化し、市民県民が愛する地元、そこに県外、国外の観光客が^{よそみ}（※）をしってくれる地域になればと思います。

東京4年、静岡3年と、四日市にじっくり触れる機会がなかった環境でもあり、帰省した際の遊び場であった近鉄四日市駅前のボーリング場が無くなった時には、大変寂しさを感じたことを記憶しています。しかし、改めて四日市に触れてみれば、意外と元氣な姿が散見され、心なしか安堵しました。例えば、近鉄駅前のふれあいモールの再開発、商店街内のマンションの建設などの見える変化を一例とすれば、他にも観光客

※四日市観光戦略会議にて、三重県四日市市が県名と市名に数字が入る全国唯一の都市で、東海道43番目の宿場町だったことが着目されています。

私、通信に学びましたのは、もう27年も前のことです。神戸で生まれた私が四日市へ来ましたのは、10才で母と死別し父が四日市で再婚したからです。やはり同じ10才で母親と死別して新潟より団体就職して来ていた主人と恋愛結婚をしたのは、本当に不思議な縁で運命を感じる出会いでした。

にも精神的にも大きな負担でした。それでも理解ある優しい主人の協力を支えに頑張ることが出来たのは、主人と二人で過ごす豊かな老後のためだったと思います。今迄は地区の役員等もすべて主人任せでしたが、今年始めて自治会の役員を引き受けてご近所デビューすることも出来ました。孫達も大きく成長して少年団、クラブ、塾と忙しくなり、3人の娘達が揃うのは、正月とお盆ぐらいとなりました。

好運に感謝

新保 由枝

（四高通信制60年度卒）

私、通信に学びましたのは、もう27年も前のことです。

かでも、生活体験発表会で四高代表として東海北陸大会に出場させて頂けたことは、生涯忘れる事の出来ない良き思い出となりました。

私を応援してくれていた3人の娘達はそれぞれ結婚し、孫も合わせて7人恵まれました。孫の誕生日には3人の娘達の家族が全員我が家に集まりバースディパーティをするのが恒例でした。皆が騒いで帰った後には、主人が黙って片付けを手伝ってくれていました。

普段静かに本を読んでいる主人との生活は、平凡な日常です。忙がい合い間に立ち寄ってくれる孫達に目を細めている主人の横顔を見ている時が至福の時です。豊かな老後に感謝!!

働しながら学ぶことが出来ましたのは、主人の理解と、小学生だった3人の娘達の協力があったお蔭と今も感謝しています。レポート作製に追われ、休日はスクーリングに通う忙しい生活でした。物事をゆっくり考えるゆとりも無いけれど満ち足りた時間だったと今でも思います。な

3年前に、定年には1年早かったのですが28年間勤めていた職を退職しました。50才を過ぎた頃より合理化が進み職種変更を余儀無くされ、年をとってからの職種変更は体力的



学園だより

閉塞感に覆われる社会、活気あるリーダーへ育て

幻の応援歌20年経て復活

四日市高校開け「希望の門」

硬式野球部が44年ぶりに三重大会で準決勝に進出した昨夏、学校は夏の課外授業の真最中でしたが、生徒から「応援に行きたい」と自主的に声上がり、試合に間に合うように授業時間を短縮し、ほぼ全員の生徒が四日市霞ヶ浦野球場に応援に行きました。校歌を歌い、楽しそうに応援する姿に、代表として戦う者に共感する様子を見とり応援歌の復活を決めました。

学校5日制で学校行事が短縮された影響もあるのか、応援歌は20年以上、歌

硬式野球部が44年ぶりに三重大会で準決勝に進出した昨夏、学校は夏の課外授業の真最中でしたが、生徒から「応援に行きたい」と自主的に声上がり、試合に間に合うように授業時間を短縮し、ほぼ全員の生徒が四日市霞ヶ浦野球場に応援に行きました。校歌を歌い、楽しそうに応援する姿に、代表として戦う者に共感する様子を見とり応援歌の復活を決めました。

学校5日制で学校行事が短縮された影響もあるのか、応援歌は20年以上、歌



閉塞感に覆われる社会、活気あるリーダーへ育て

四日市高校開け「希望の門」

幻の応援歌20年経て復活

硬式野球部が44年ぶりに三重大会で準決勝に進出した昨夏、学校は夏の課外授業の真最中でしたが、生徒から「応援に行きたい」と自主的に声上がり、試合に間に合うように授業時間を短縮し、ほぼ全員の生徒が四日市霞ヶ浦野球場に応援に行きました。校歌を歌い、楽しそうに応援する姿に、代表として戦う者に共感する様子を見とり応援歌の復活を決めました。

学校5日制で学校行事が短縮された影響もあるのか、応援歌は20年以上、歌

高校野球4強入り契機

＜平成24年1月19日 朝日新聞掲載＞

らも試作CDができました。そして、12月末の全校集会で応援歌「希望の門」を流し、大学入試センター試験に臨む3年生を激励しました。

「将来に希望が持てず不安な時代だが、前向きに取り組む主体性を持ち、社会に貢献できる人材に育ってほしい。応援歌が一助になれば」、そのような思いが、朝日新聞に伝わり、「閉塞感に覆われる社会だが、希望を胸に、活気あるリーダーに育ってほしい。創立112年の伝統校、県立四日市高校が、生徒の成長を願い、埋もれたままになっていた応援歌を復活させた」と、球場で応援中のバトン部（本年度バントントワーリング三重大会金賞、最優秀賞受賞）の写真も掲載され、大きく取り上げられました。（学校長 水谷明弘）



四日市高校生活で

学んだ団結力

3年7組 永川 恭州

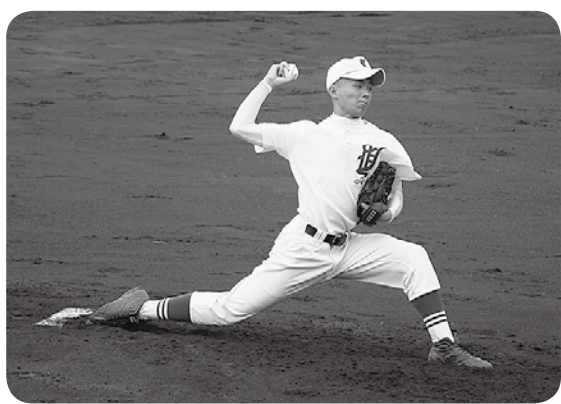
私は四日市高校で多くの先生方や友達に恵まれ、毎日楽しく、有意義に過ごすことができました。そして、この3年間を通して団結力というものを学ぶことができました。

私はラグビー部に所属していましたが、入部した当初は、ラグビーというスポーツは実力者が1人いれば勝てるスポーツだと思っていました。しかし、いざ試合になると、個人の實力とは関係なく全員の息が合ったプレーをする団結力のあるチームの方が真に強いことに気付きました。その後団結力のあるチーム

一瞬の夏・一生の記憶

硬式野球部 黒川 拓実

昨夏ベスト8というバトンを渡された新チームは、先輩たちの実践していた「元氣・本気・笑顔」を意識し、「日本一の文武両道」を掲げてスタートしました。



初めての秋季大会では惜しくも三重高校にサヨナラ負け。ベスト8まで勝ち進めたことは自信になりましたが、21世紀枠での甲子園出場まであと一歩だと思つて悔しさが残りしました。「なぜ勝てなかったのか」を考えて取り組んで臨んだ春季大会でしたが、結果はベスト16。またも競り合いの試合で敗れ、接戦に勝つためにはどうすればよいかをチームで話し合い、チームの力で勝利を掴むために一人ひとりがチームのために今できることを考え直しました。中には自らプレーすることを諦め、サポーターに回ってくれた仲間もいました。ぶつかりあうこともありました。が、次第にチームが一つにまとまってくることを実感しました。

そして臨んだ最後の夏。スタンド

策を立てることで時間が有効に使え、お互い刺激合つてモチベーションも上げることができました。

そして、私達がまさに自分の進路や将来を考える3年生になろうとしている時に起きた、東日本大震災とそれに伴って発生した原子力発電所問題は、私達に多くの問いを投げかけました。当初は、地理的に遠い東北地方で起きた天災だという認識しかなかったものが、全世界に影響を及ぼす大災害となったことで、何気ない生活ができる幸せや、家族と友達の大切さを実感し、日本の政治や科学力への課題に直面しました。一方、日本人の助け合いの精神や底力を感じ、日本人としての誇りを改めて持つようになりました。

先生方はよく、四高生は将来の良きリーダーになるべく努力しなさいと指導して下さいました。お互いに尊重し思いやり、自分の出来る限りの努力を惜しまない四高生は、そのような良きリーダーになれる資格があると思います。これからもここ四日市高校で学べたことを誇りに、社会に貢献できるよう成長していきたいと思っています。

編集後記

地元情報誌に紹介された丹羽文雄。それを機に調べた母校の歴史。古い八陵星から見つけた応援歌の楽譜に、練習していた高校時代の友の顔が浮かびます。折も折、新聞記事に沸いた同窓生の輪。青い時代を共に過ごした仲間は、ちよつとしたきっかけですぐに当時の姿に戻る事ができると感じました。

（小林）

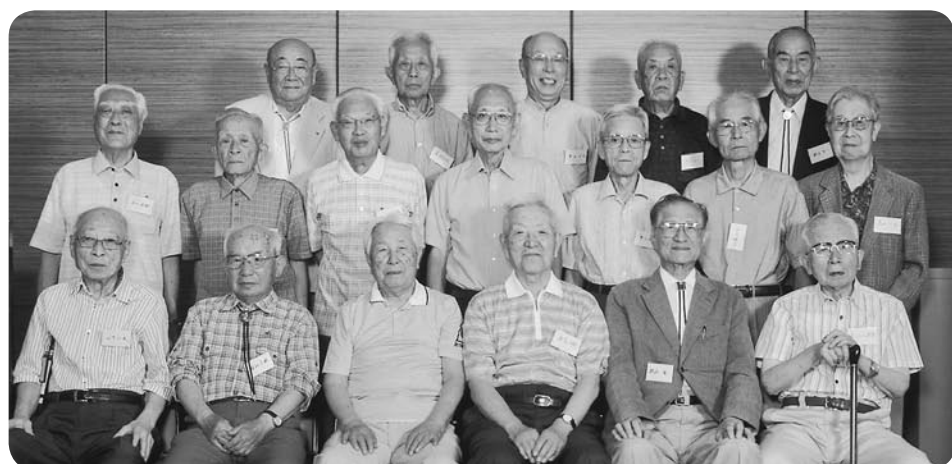
同窓生交歓



北海道富中四高会 H23.6.24（札幌市内）



富中三八会 H23.8.26（たまゆら）



富中第41回会 H23.7.23（四日市都ホテル）



富中第40回卒業生同年会 H23.10.31（四日市都ホテル）



在京富中会（富中40回卒） H23.6.22（KKRホテル東京）



通信制親睦旅行 H23.6.5（高野山）



四高二七会 H23.10.20（新湯の山温泉グリーンホテル）